

Vol.177 「オンライン授業の評価」

Society 5.0 時代を生きる子どもたちにとって、オンライン授業は新しい日常が急に訪れたようなものです。それは学校にとっても急激な社会変化であり、今や、社会のあらゆる場所で ICT の活用が広がっています。では、学校での ICT の活用はどのようになっているのでしょうか？今回は、全国の小中高校の教員を対象に、オンライン授業の実施経験の有無、教師が思うオンライン授業の評価とその理由について調査しました。



調査概要

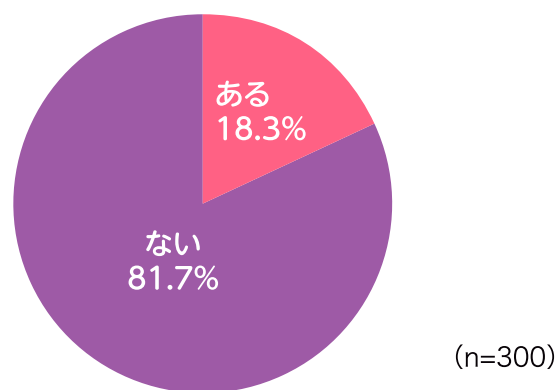
調査対象：全国の小中高校の教員300人

調査方法：インターネットリサーチ

実施時期：2020年7月

Q 1. オンライン授業の実施経験の有無

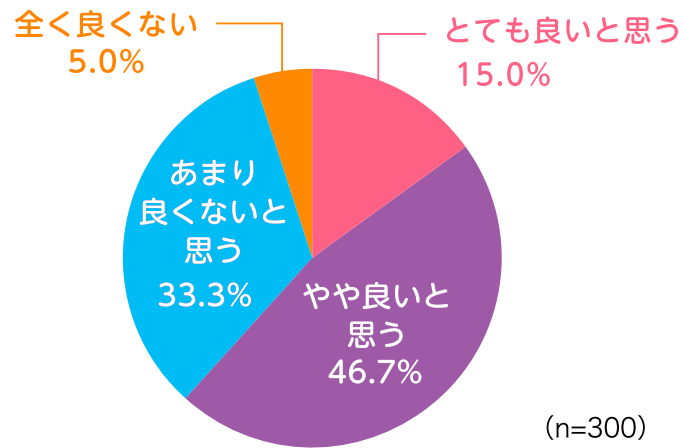
小中高校の教員のオンライン授業を実施した経験は、「ある」(18.3%)に対し、「ない」(81.7%)という回答が圧倒的に多いという結果になりました。



【図1】 あなたは、オンライン授業を行ったことはありますか。(単数回答)

Q 2. オンライン授業の評価

オンライン授業について、「とても良いと思う」(15.0%)と「やや良いと思う」(46.7%)をあわせると約6割が良いと回答し、良いイメージを持っているようです。



【図2】 あなたはオンライン授業について、どのように思いますか。(単数回答)

Q 3. オンライン授業の評価の理由

オンライン授業の賛否については、良い点は、「これからの時代の新しい形だと思う」、「コロナ対策をしつつ、授業を行える」、「不登校児童も参加できる」、「映像で見たり聞いたり出来るのは理解しやすいと思う」、「新しい教育の可能性が広がる」といった感染対策だけでなく、教育環境としての利便性があげられています。一方、良くない点としては、「中学校での多人数授業には向かない」、「小学生では、学習に集中することは困難」、「ICT環境のない家庭がある」、「一方通行になってしまう」、「対面でしか出来ないこともある」、「子どもたち同士のつながりが少なくなる」など、学校の教室とは違う場所での問題点があげられました。

良いと思う理由


- これからの時代の新しい形だと思う。
- 感染のリスクを防げる。
- コロナ対策をしつつ、授業を行える。
- 安全である。
- 場所を選ばず、実施しやすい。
- 臨時休校になったとき、ふだん通りの授業はできないが、授業を進められる。
- 不登校児童も参加できる。
- 通常の授業とは異なるが、子ども達の様子を把握することができる。
- 生徒のレベルに合わせた個人授業ができる。
- 映像で見たり聞いたり出来るのは理解しやすいと思う。
- 新しい教育の可能性が広がる。

良くないと思う理由

- 中学校での多人数授業には向かない。
- 小学生では、学習に集中することは困難。
- ICT環境のない家庭がある。
- 全員平等の条件や環境が整っていない。
- 一方通行になってしまう。
- 生徒の様子がわからない。
- 集まって話し合い等をする事ができない。
- しっかり内容が伝わらない。電磁波の影響で身体に不調をきたす。
- テンポのある対話ができない。
- 対面でしか出来ないこともある。
- 子どもたち同士のつながりが少なくなる。

(n=300)

【表3】 そのように思う理由を教えてください。(自由回答)

 **まとめ**

文部科学省が推進するGIGAスクール構想は、義務教育を受ける児童生徒のために、1人1台の学習者用PCと高速ネットワーク環境などを整備し、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が期待されています。しかし、学校・家庭のICT環境の整備も十分とは言えず、課題も多いようです。

今回、全国の小中高校の教員300人を対象に、学校教育におけるオンライン授業の実施状況を調査したところ、2020年7月時点で、オンライン授業を実施した経験は、「ある」(18.3%)、「ない」(81.7%)という状況で、オンライン授業の実施は少ないということがわかりました。その一方で、オンライン授業については、「とても良いと思う」(15.0%)と「やや良いと思う」(46.7%)をあわせると約6割が良いと評価しています。自身はオンライン授業を実施した経験がなくとも、肯定派が多いようです。オンライン授業のメリットは、「感染のリスクを防げる」、「コロナ対策をしつつ、授業を行える」といった感染対策の観点以外にも、「不登校児童も参加できる」、「映像で見たり聞いたり出来るのは理解しやすいと思う」、「新しい教育の可能性が広がる」といった新時代の教育への期待・効果が伺えました。デメリットとしては、「ICT環境のない家庭がある」など教育格差を心配する声や、「一方通行になってしまう」、「中学校での多人数授業には向かない」、「小学生では、学習に集中することは困難」など教室とは違う環境で、大勢で学習を進める困難さや学齢などによる対応の難しさなどが顕在化しました。

学校教育は、子どもたちに平等に与えられるものでなくてはなりません。社会は変化し、これからの学校教育の在り方も劇的に変わることが予測されています。その中で、子どもたちを取り残さない学校教育が求められています。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

検索<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>